平成30年度岩手県立図書館協議会会議録

１　期　日　　平成30年11月14日（水）13：30から15：30

２　場　所　　岩手県立図書館　研修室

３　出席者

⑴　協議会委員

小山田　泰裕 委員　　菊池　桂 委員　　斎藤　純 委員　　澤口　杜志 委員

下机　暁美 委員　　吉植　庄栄 委員　　吉丸　蓉子 委員

⑵　事務局

ア　県立図書館

朴澤館長　　高橋副館長　　佐藤主査　　日影主査　　角舘主査　　吉家主任

イ　生涯学習文化財課

松川社会教育主事

ウ　指定管理者（図書館業務担当）

北條総括責任者　　似内副総括責任者　　姉帯副総括責任者

似内サービス部長　　安保総務部長

４　会議の概要

⑴　開会

岩手県立図書館管理運営規則第10条第2項に基づく会議の成立を報告

⑵　挨拶

朴澤館長

⑶　会長選出

協議会委員改選の年のため、互選により吉丸蓉子委員が会長に選出された。

⑷　報告及び協議

ア　県立図書館の運営概要について

事務局から資料№1に基づき説明した。

【意見等】

（斎藤委員）今回の方針にも、東日本大震災関連のことが記載されており、県立図書館としてこれからも支援を続けていってほしいと思うが、新しい方もいるのであえて申し上げたい。震災直後に被災地から本が欲しい、特に子供たちが読む絵本が欲しいという声が我々支援活動をしている団体には寄せられた。その時、県立図書館にどうか本を持っていってほしいという連絡をしたところ、本の貸し出し用紙を送り付けてきた。この非常事態に何をしているのかと怒ったが、県立図書館としては動ける限界があったと、当時の館長も悩んでいたようだった。その間に滝沢村が何をしたかというと、移動図書車を被災地に出して、本がたとえ返ってこなくてもいいと貸し出しを行った。それを誰

も批判しなかった。議会でも問題にはなっていない。やはりそういう時に、どういう決断をとれるか。上からの指示を待っていたらそういう時には間に合わない。これからもどんな災害が、災害だけではなく何が起こるかわからないので、二度とああいうことがないように、腹を据えて活動していってほしいと思う。沿岸へ支援活動する時に、あの時は申し訳なかったという気持ちを忘れないで欲しい。ちょっと辛口だが、一言として。

（吉丸会長）7 年も経ってしまい、またいつかこういった様な事態がいつ起こるやもしれないので、私どもも連携しながら、心してそういう事態にあたって参りたいと思う。

イ　県立図書館利用状況等について

事務局から資料№.２、資料№.３に基づき説明した。

【質疑等】

（小山田委員）利用状況の新規登録者数だが、入館者数が減っている中で一定の新規があるが、どういう方が新規で、年代とか職業などは判るものか。また、分類別の貸出冊数のところで、大きく冊数を落としているのは、どのような要因があると受け止めているか、教えていただきたい。

（安保部長）新規の登録者数の内訳の部分については、登録時にお客様の職業等の属性について特段問うておらず、把握はしていない。登録に関して、年代別内訳の統計は取っていないが、今現在の図書館の貸出の規則として、一般利用者、幼児という二つの括りがある。一般利用者というのは小学生以上、幼児は未就学児で 0 歳からおおむね 6 歳ぐらいまでのところの年代となる。それでいくと、平成 29 年度については、幼児の新規登録は 196 名となっている。それから一般、小学生以上については、3,694 名、この他に郵送貸出の利用者、これも主に成人の方で、大人の登録としては 3,696 名という内訳となっている。細かな年代までは、把握はしていない。

（吉丸会長）登録者の属性まではわからないということだ。それでは、分類別の方の説明をお願いする。

（安保部長）貸出分類表でご覧いただいた通り、文学とか絵本とか一般的に図書館で貸し出し利用が多い分野の減少幅が大きいという状況がある。この点に関して、県立図書館の利用状況を当館だけではなく、周辺の図書館の整備状況も踏まえながら概観的に見ていくと、紫波町に居住されている方の当館の利用状況は、オガールに新しい図書館ができる前とできた後では特に児童書の利用状況が全く異なり、ほぼ 0 に近くなる。児童書、絵本などは、身近なところで利用できる環境が整ったために、そちらを利用されている状況かと思われる。文学などの、一般的に図書貸出利用が多い分野も同様のことが言える。

（小山田委員）減少したからと言って、一概に悪いことではないという感じがした。周りにいろいろ出来て分散しているという風にとらえればいいのかなという風に今受け取った。

ウ　県立図書館事業実施状況等について

事務局から資料№.４、資料№.５に基づき説明した。

【質疑等】

（吉丸会長）本当に多彩な事業を各方面から攻めこんで、細やかに意欲的にやっている様子が伝わって我々もなんだかわくわくしてくるような気がした。

入場者数や貸出者数などの減少を気にされているような感じだが、浸透するところにはしっかりと、この事業が浸透して、本を好きになったり図書館を好きになったり、あるいは文化という風なものに目を向けていく人々が増えているんではないかなという気持ちを持つことができた。

（菊池委員）ボランティアの募集について、どのような形で募集しているのか、登録者の年齢層を教えていただきたい。

（似内部長）ボランティアの募集については、毎年12月の半ばから１月の半ばにかけて、来館者にはパンフレットを配布、また、ホームページに掲載している。募集要項を掲載しており、そちらをご理解いただき応募していただいている。年齢層に関しては、平日の活動をする図書修理等は50代、60代が多い。読み聞かせは、60代から80代にかけてのベテランもいるが、年々30代とか40代の方が参加されているのが現状であり、今後も脈々と続いていくものと考えている。配架に関しては、退職された方で定期的に来たいという方もいるが、一方で社会体験としてという学生等もおり、幅広い年齢層がおいでになっている。

（菊池委員）ボランティアへの旅費は特に設けているか。

（似内部長）無償が原則なので、みなさん自分で来ていただいている。

（菊池委員）すると通える範囲というか、特にそこは限定されずに自分で通える範囲で来ている形なのか。

（似内部長）ご自身で盛岡市外から通っている読み聞かせボランティアもある。八幡平市とか花巻市とかからもいらしている。そちらはもう完全に自身で都合をつけておいでいただいているというところ。

（澤口委員）ボランティアに関して、うすゆきそう文庫に、利用者の友人で３０代の方が、仕事を今度やめるのでボランティアをしたいがどういうところに行けばよいかというお尋ねがあった。お住いの近くが一番いいと思い、矢巾の方なので、いくつかのボランティア団体を知っていたが、やはりそこのカラーがあると思い、まずは図書館にお尋ねになったらどうかと話した。事

前に矢巾図書センターに電話で聞いたところ、ボランティアの読み聞かせを募集しているという事で、お知らせした。やはり、年々こういうボランティアの方は減り、特に若い方が減っていると思うので、そういう貴重な方にぜひボランティアをしていただけるように、まずは図書館に、というところをもっとアピールしてはどうか。県立図書館から近くの何々図書館に行ってみたら、という風に紹介していただけるといいと思う。

（下机委員）ボランティアの募集が 12 月から 1 月にかけてというということだが、間口を広くというか、1 年を通じて募集し、いつでもなりたい人がボランティアになっていただければいいのではないかと思った。ボランティアを希望した場合、審査等なくボランティアに登録になるのか。

（似内部長）審査等は一切ない。ただ、毎年のことだが図書修理等は、定員が用具の都合等で決まっており、先着順とさせていただいているボランティアもある。

（澤口委員）手づくり絵本の話があったのでひとこと。12 月にわらべ歌講座を開いたのだが、東京にお住いのみなみじゅんこさんという絵本作家がいらして、その方は 30 年ほど前、新婚の時に、盛岡に 2 、 3 年いらしたようだ。盛岡が大好きで、時々いらっしゃるそうだが、（絵本作家になる）きっかけが、ここの手づくり絵本だったそうだ。入選されて、その入選した絵本を見せていただいたのだが、本当に手作りでもうボロボロになっていて。ここが原点だったのかと、すごくうれしくなり、少し誇らしく思った。ありがとうございます。

（菊池委員）県と TRC とそれぞれに説明頂いたが、資料の作り方自体、もう少し県と TRC の事業をわかりやすいような形にしてはいかがか。事業の事だが、市町村の自治体の大体は今、赤ちゃん用のブックスタートをやっているが、県として何か赤ちゃん用の事業は考えているか。

（北條総括）県立図書館の直接サービスとしての赤ちゃん向けということについては、資料として赤ちゃん用の絵だけが描いてあるような絵本の備え付け、それからハイハイできるように靴を脱いで入ってもらう絵本コーナー、そこも赤ちゃん向けという想定をした室内になっている。それから数年前から絵本コーナーの近くに、お母さんが読むような子育てに関する本、実用書を置き、声を出したり、泣いてしまうかもしれないお子さんを一緒に連れてきても、子どもの声を気にせずに自分自身が読みたい本をご利用いただけるような環境を整えている。

　もう一つ、先ほど話にあったように、来年度からの指定管理者が正式に決定されたら、その部分についてもう少し手厚く、職員が今まで読み聞かせを少し年齢の高い子や、お話がちゃんと聞ける子などを想定してやって

きたが、もう少し簡単な形で、感じるというような形の、赤ちゃんや幼児向けの取り組みを何か出来ないかというようなことは考えているところである。

（菊池委員）できればやはり事業の中に「赤ちゃん」という言葉の入った事業があればよいのかな、と感じた。

エ　県立図書館施策推進計画について

事務局から資料№.6 に基づき説明した。

【質疑等】

（吉丸会長）新たな運営方針で９項あるが、この中で特に重要な施策は何か。

（高橋副館長）１から９までどれも優劣つけがたいが、２の広報活動についてと、５の今日的課題への対応については重要事項として特に書き出したものである。

オ　その他

（吉植委員）配布資料（「日本の図書館 2017」、日本図書館協会）に基づき３点について質問をしたい。１番目、予算について。「図書館費」の前々年度決算額は 67,118 千円、今年度予算額は 59,589 千円となっており、減っている。それから、近隣の県とちょっと比較すると、宮城県は人口規模も大きいのでわかるが、青森県は約 3,4 倍くらい予算を持っている。東北の他の県立図書館と予算を比べるとずいぶん少ないが、どのような背景でこうなってしまったのかということと、なおかつ減額が続いている、この 2 年だけでみると減っているというのがどうしてなのか知りたい。

２番目、専任職員について、専任が９名とあり、うち司書が２名、専任・専門的な職員という事で、図書館法で定められている専門職員が 2 名ということだが、他の県と比べるとこれも少ないのではないかと。もちろん、61 名となっているのが TRC で、こちらの方で有資格者が多いのではないかとは思うが、専門業務を司る方の中でも、かなり図書館知識がない、知識はあるのかもしれないが、資格を持っている方が少ないということで、こちらのほうはどうなのかなと。この数値だけ見ると、TRC の方がどれぐらい司書資格を持っているかがわからない。

ということで更に提案だが、今回資料を事前に頂いたときに、予算についての資料が全くなく、特に利用者向けの変化が詳しく書いてあるが、経営変化、予算がどうなっているかとか、あと組織図とか、それから人員の配置、人数、その中での有資格者といったデータがないので、これまでのお話も素晴らしいが、そういった経営に関する大事なところの情報がない

かと思うので、そういった資料も来年度から是非つけていただけないかと提案する。

（高橋副館長）1つ目の予算について、図書館費が東北他県に比べて低いのは、当館が指定管理者制度を導入している状況があり、そこをどうカウントするかというのが、やや表に出てこない部分であると思う。一方、その隣の資料費というところは、これは純粋に図書資料の購入費であり、ここだけを取り上げてみると、確かに他県に比べて低い状況にある。東北の中でいけば、下から2番目とカウントしている。図書資料費を人口1人当たりで割ると、当県はこの時には、人口1人当たり17.9円だが、一方で、青森県は45円という圧倒的な数字である。予算は、当県では、対前年比5%シーリングというものがおおむねかかっており、年々減っているのが実情。図書購入費に関しては、10年前、平成20年を100とすると、今年度は7割である。当初予算としては、それだけ年々減っているという状況にある。ただ、ここの数値に出てこない部分があり、当県としては、補正予算で資料費を頂いているのがここ数年の状況である。今年度も、これからだが、できれば補正でつけていただきたいとアクションをしている。当県としては、予算設計の仕組み上、マイナスシーリングはやむを得ないという状況にはあるが、補正予算などを活用してなんとか引き上げる工夫はしている。

2つ目の専門職員について、県職員9名の中の司書資格者2名である。実は今年度当初も同じであるが、今年度は年度途中に1人増やしている。職員を富士大で行われている講習会に派遣し、資格を取らせた。今後もこの事業が引き続きあるかわからないが、できるだけ活用しながら、県の職員の中にも多く司書を確保していきたいと考えている。一方、指定管理者については、今年度当初の数字で、職員47名のうち有資格者34名である。全体としては高い率となっている。

それから3つ目の御提案について、ごもっともであり、次回からは予算についても、あらかじめ資料に加えたい。

（吉植委員）指定管理のお金が入るということになり、なかなか統計に出ない数字があるということである。しかしあまり外には出ないような話も、協議会ではできれば委員で審議したほうが良いかと思うので、是非考えていただきたい。それから、研修に出して1人司書資格の方が増えたというのは大変よいことだと思う。やはり総務部門は事務の専門家であるので、行政職が専門職としてそれに特化して、TRCがサービスというのもわかるが、あまり仕分けして分業を進めてしまうと、お互いの気持ちがわからなくなるので、是非県側にも有資格率を上げて、専門的知識を持った方を優先的に配置することを考えていただければと思う。

（澤口委員）陸前高田とか、新しい図書館見学させていただいたが、ほとんど複合施設なのだが、県立図書館としては、建てるにあたってアドバイスをしているのか。実はボランティアで気仙沼図書館に震災の年から行っているが、今年の 3 月、単独館ができて、周りに小学校、中学校、児童館があり、大層中学生の利用が高くて大変いいなと思っている。

（高橋副館長）震災で被災した図書館は、震災復興の予算で、実は旧館と同じ面積のスペースしか作れない。それを単独館にするか、それとも複合施設にするかは地元の決め事である。当館としては、機能や運営等、そういう面に関してアドバイスはできる限りさせて頂いているが、そもそもどう作るのかというのは地元のお考えである。例えば陸前高田は、集客の核としての図書館ということを狙われていたようで、そういう前提で、私どもも対応をさせて頂いている。

（吉丸会長）以上で本日の協議会における審議事項を終了する。

⑸　閉会